



おおぞら

第212号

2023年1月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

おおぞらの発達期リハビリ

所長 木部 哲也

おおぞら療育センターリハビリテーション部（以下おおぞらリハビリ）には6名の理学療法士と4名の作業療法士が所属し、共に発達期運動障害のリハビリを行っております。今回は、おおぞらリハビリがどのような役割を担い、どのような支援をしているかを述べます。

おおぞらリハビリ利用者の特徴は二つの多様性で、その一つは障害像の多様性です。これには障害がどの時期にどのような起こったか（要因）、疾患そのものの特殊性からくるもの、また、姿勢や運動だけでなく、コミュニケーション（表出の手段）、行動のパターンの多様性があります。そして二つ目はライフステージによる多様性です。乳児期であれば家族との愛着形成を意識しながら発達を促すこと、幼児期であれば保育園等の社会参加が始まり、生活動作の獲得も必要となります。学童期では学習場面での課

題対応、成長と共に骨格の変化や身体や関節を柔らかい状態に保つことも重要となります。更に成人期になると、運動機会の提案や、肺炎など呼吸器系の感染予防など健康維持を目的としたリハビリも行ないます。

おおぞらリハビリではこの障害像に応じて支援目標・支援方法を検討します。そのため、障害の評価（アセスメント）が大変重要となります。アセスメントは、身体機能、呼吸や嚥下機能、手や足の動きや力加減、本人が意図しない姿勢や運動の様子、視る力、聴く力、不快の表出の仕方といったいくつかの視点で行っていきます。その上で子どもたちの興味のあることにアンテナを高くし、「やってみよう」、「挑戦してみよう」という意欲を大切にしています。リハビリの支援を通して、利用者が試行錯誤し達成感を得ることにより、次のステップへの挑戦へと繋がっていきます。この経験

を積み重ねることで発達が促されます。また、家族の障害の理解にもつながると考えています。

一つのエピソードを紹介いたします。生活の中で椅子に座ることに不安が強く、中々座位の獲得につながらない利用者がいました。ある時、リハビリスタッフがサドル付き歩行器で歩行体験を提案しました。利用者自身で移動する経験をするのが「やってみよう」という意欲につながるのではないかと考えたからです。すると本人は見事に乗りこなし、とても生き生きとした表情で自ら足を蹴って移動することができました。このような「できた」を経験することにより、不安だった座位へも「座ってみよう」という気持ちの変化へ結びつきました。同時に、リハビリでは遊びやすい座位姿勢のアセスメントを行い、安心して座れる姿勢の検討を行いました。支援するスタッフ間で「座って遊ぶことの意義」が共有され、日常生活での座位導入へと繋がりました。達成感を得る経験学習を積み重ねることや、安心して座るための支援へ広

がりました。

最後に、おおぞらリハビリとして最近新たに取り組んでいることを一つ紹介いたします。先にも述べましたが、おおぞらリハビリでは「やってみよう」という動機づけや成功体験を大切にしています。このリハビリの現場での経験を家庭や地域における児童発達支援事業所、教育現場、訪問リハビリ、生活介護施設などに広げていくことにも取り組んでいます。生活に根ざした支援の連携がより重要であると考えているからです。その中でいくつかの気づきもありました。おおぞらリハビリでは、支援者の方々の声をよく聴き、一方通行にならないように、どんな人も分かりやすい伝え方であること、相手の領域を理解した提案ができるように心がけていきます。



ほくとの 日常活動

小田 広務

Aさんはリビングを歩いて、置いてある素材を見つけて拾ったり、ソファに座ってテレビの映像を見たりして過ごしています。他にもお菓子やジュースを飲食したり、ラーメンや炒飯をテイクアウトして食べたりして、普段と違う食事を楽しむこともあります。気候の良い日には外に散歩へ出かけます。顔をよく動かし、周りの景色を見ながらのんびりと歩いています。風が吹くと心地よさそうな表情をしています。

日常活動では、『ちびねずくんのながーいよる』という本を語りかけました。「ユーピーユーピーユーピー」のような擬音語や、「おきてよーおきてよー」と語尾が伸びようなフレーズになると、体の動きを止めて聞いていました。

『もりのおふる』という本の語りかけでは、「ゴシゴシしゅっしゅっ」のフレーズで本に視線を向けたり、そ

のフレーズが繰り返してでくるとにこやかな表情をしていたりすることがありました。最後の「おゆをザブーン」「おふるへどぼーん」のフレーズで再度本に視線を向けたり表情を緩めたりと、フレーズの繰り返し後にリズムが変わると面白みを感じていました。

音と動きの変化を感じられる活動を行いました。「かっぱかぞえうた」の語りに合わせて紙コップを積んでいきました。「ひとつひめゆりひょっこりかっぱ…」のリズムで紙コップをピラミット状に置いていくと1段目ができた辺りから紙コップによく見えました。紙コップをひとつずつ回収するときは職員の手の動きや紙コップがなくなる様子



も追ってじっと見ていました。手の動きと物が現われてなくなることに面白さを感じていたようでした。

キーボードを使い、きらきら星やチューリップのメロディを弾く活動では、鍵盤の音が聞こえると、職員の手の動きに視線が集まっています。職員が鍵盤を押すとその鍵盤が光っており、その光や音を見聞きしていました。きらきら星の「まばたきしてはみんなをみてるよ」、チューリップの「さいたさいた」と同じ音が2回繰り返される部分で顔を上げて職員を見たり、目を大きく開いてハツとした表情をしたりしていました。手の動きと音の繰り返しに気づいたようでした。

タブレット端末で「かえるさん」というアプリを使った活動を行いました。画面上で「かえる」や「おたまじゃくし」が不規則に動くところをよく見ていました。また、職員が画面を触った時に鳴る効果音や画面の中の水面が現われる動きにも注目して見ました。音や画面の変化に面白さを感じていました。

活動素材の 紹介

タブレットアプリ

「もっとあそべビー」

「ぷらす」

アプリ内でモードをいくつか選べるようになっており、これは目や口、輪郭、髪型などをタップするとパーツの種類が変わったり、移動させたりして顔を作る内容のものです。自分で操作する利用者は少ないため、パーツの種類や位置、向きによって悲しい顔や笑っている顔、面白い顔などに職員が変化させて見せています。移動させていく動きやパーツの種類が変わる様子をじっと見ています。ひげやめがねなどのパーツが加わると面白いように笑って職員の方を見えています。また、「なんか泣いているみだいだよ、どうしたのかな」などと声をかけながら変化させていくこともあり、気持ち想像するようになりとても楽しんでいきます。



「クリップ」

写真の道具は、カラークリップの入った箱の背面に磁石を当てると、クリップが力チャカチャと音がしながら磁石にくっつき集まってくるようになります。磁石をゆっくりと上方へ動かすと、集まったクリップが形を変えながら動いていきます。クリップが上方までいたところで



少し間を置き磁石を離すと、カチャッと音をたてて一気にクリップが落ちます。始めた頃は、形が変化しながらゆっくりと動いていく様子やそれまで動いていた物が最後に一気になくな

なる変化に興味を持ち、動きとともに音があることでより面白さを感じられるといいなと考えていました。繰り返し取り組むうちに、一連の流れを感じているようで、クリップの塊が上方までいくと、落ちる（なくなる）事を期待するようになった利用者がみられるようになりました。クルップの集まり方、磁石の動かし方によっては、毎回同じ形や動きでないことも面白さを感じる要素の一つのようでした。

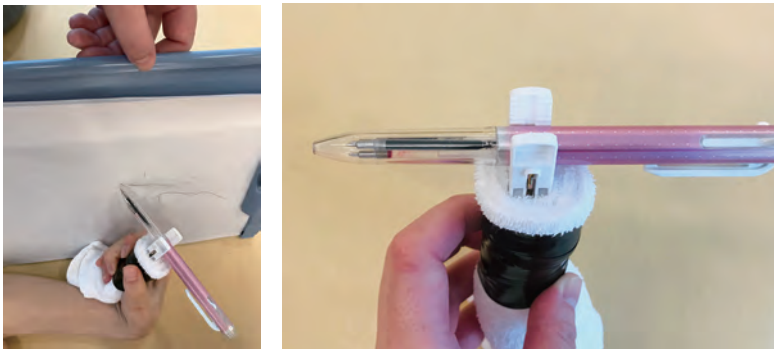
描画

描画の活動道具を3つ紹介します。

① 『描きやすく工夫したペン』

握るだけで描きやすくなるよう、ペンを工夫しました。作り方は簡単です。まず、ペン（サインペンなど色つきがよい物）、洗濯ばさみ（クリップでもよい）、テープ、タオル（新聞紙等でもよい）を用意します。次に、洗濯ばさみにペンをはさみます。ペンをはさんだ洗濯ばさみの握る部分にタオルを巻き、テープで留

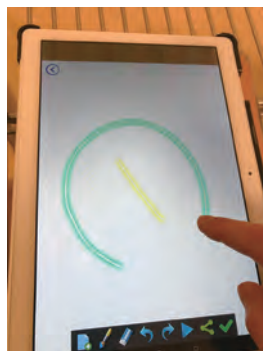
めます。こうすることで握りやすくなり、握るだけでペン先が紙の方へ向きまします。洗濯ばさみにペンをはさんでいるので、個人に合わせてペン先の角度の調整が可能です。握りやすく簡単に紙に色がつくことで、利用者も描くことに集中しうになりました。



② タブレットアプリ

『Kids Doodle』

指を動かすだけで色がつかえます。このアプリは背景の色や色のタッチが選べます。また、自分の指の動きと連動して色や線がつくので、自分の動きで画面が変化していくことが分りやすいです。また、再生ボタンを押すと描いた順番に線や形が表れるため、次々に表れる色や形が変化していくところを見るのも面白いです。



③ 『水習字』

特殊な紙に水のついた指や筆、スポンジなどを紙の上で動かすと、色がついていきます。色は単色ですが、水だけで簡単に描くことができます。水の量により濃淡が表れたり、乾くと色がだんだんと消えていったりするの面白さがあります。また、乾けば何度でも使えるところもよいです。



異動職員紹介

2号館 小川聖斗

C3病棟より異動しました小川聖斗と申します。おおぞら療育センターでは利用者の方の安全・安楽のケアを提供するとともに看護師による特定行為の資格を取得していきたいと思っております。



リレーエッセイ

「我が家の飼育活動」

相談支援 松山喜子

ここ3年、毎週末、多い日には日に何回も昆虫採集や魚釣り、トカゲ等のは虫類を捕まえて息子達と出かけています。3人の息子達は元々生き物が好きでしたが、コロナ禍になって、ますます生き物を探して飼育する事に熱中しています。始めの頃は魚釣りの生き餌であるブドウ虫を冷蔵庫の野菜室に入れられることがたまらなく嫌だった私ですが、そんな事もすっかり慣れてしまいました。



火災訓練

11月4日(金)、2号館より火災発生を想定した火災訓練を実施しました。浜松北消防署の立ち会いのもと、消防署への通報及び利用者の避難誘導、消防設備の操作・初期消火・点呼の訓練を行いました。今後も施設職員が冷静かつ迅速に対応ができるように日々訓練を重ねていきます。



今年の夏は捕まえてきたヒラタクワガタなどのペアリングから産卵にチャレンジしました。カブトムシと違い、クワガタは幼虫飼育が難しいそうなので、ネットやお店で情報収集しながら、何とか無事に幼虫になりました。小さな命に触れなが

ら、図解に載っているような、色や形が変化していく様子を観察できる貴重な体験だと思えます。環境は快適か、しっかりと食べて大きくなっているかと毎日確認している息子達。勉強も同じくらい熱心にやってくれたらと思う反面、小さな

虫の命に向き合い、大切に育てる子供達の姿を見てうれしい気持ちになり、元気に成虫になる事を楽しみにしています。



おおぞら食事紹介

11月の食育献立は旬の美味しいりんごを使用した「さつま芋のりんご煮」でした。



品種により皮の色は赤いりんごと黄緑～黄色の2タイプあります。甘いものから酸味を楽しめるものまで多種類出回っています。軸が太くしっかりしており、色づきがよく、皮に張りりとツヤがある物を選ぶとよいとされています。

さつま芋とりんごをあっさり煮ました。おやつにもおかずにもなる一品です。



苦情解決委員会

2022年7月～9月
期間中公表を希望される苦情はありませんでした。

	9月	10月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	20人 (75日)	35人 (170日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	12人 (24日)	14人 (53日)
実習者数 (グループ数)	3人 (2グループ)	3人 (2グループ)

